

## 王であるキリストの祭日の説教

金 大烈 神父 2009年11月22日(日)

### 《宗教者・信仰者》

皆様は、他の人から「あなたの宗教は何ですか？」と尋ねられたらどう答えますか？ 迷わず「カトリック」ですと答えるでしょう。洗礼を受けて信者になったら、たいてい2部類のタイプに分けられます。それは宗教者と信仰者です。宗教者は何でしょうか？ 宗教者は宗教的な知識、論理などにこだわる人です。そして信仰者は心に信仰心が満たされている人です。

これから具体的に宗教者と信仰者を弁える方法について申し上げます。三つの基準があります。

一つ目は《感謝》の気持ちです。宗教者は感謝をする事が出来ません。いつも不平不満で文句ばかりで満足する事ができません。そして信仰の生活をしていても顔は暗く輝きがありません。感謝する事に囲まれていても感謝する気持ちになれない人が宗教者です。論理的には良く知っています。この状況になれば感謝しないといけないと考えますが実際は感謝しません。だから周りにいる人も暗くなります。いつも自分の秤で測ろうとします。人々を秤にかけ、自分勝手な基準に合わなかったら責めようとします。他人には合わないその秤を他人にかけ、合わないとその人を「なぜ合わない。なぜそのような生活をしている。」と批判的になり裁きます。時にはイエス様、司祭、修道者そして自分の仲間までも批判します。このような生き方をしている人が宗教者です。信仰者はどうでしょうか？ いつでも感謝しています。最初からいつでも感謝しようという気持ちで満たされています。誰から見ても現実的に、この人はとても困っているのではないかと思われてもその人の顔は喜びで満ち溢れています。使徒パウロが仰ったとおりに喜びと感謝と祈りの生活をいつも求めています。(テサロニケの信徒への手紙一5・16) このような人が信仰者といえます。

二つ目の基準は《傲慢(驕慢)な心》です。傲慢の意味は何でしょうか？ 自分が偉いと思っている事です。そして簡単に言えば《謙遜》の対義語です。質問します。「自分は傲慢では無いと思っている人いますか？」全ての人間には傲慢なところを持っています。自分はそんなことは無いと思っている方に話します。何か決めるときに自分の判断で決めますね。それは自分の判断が一番だと思っているからです。人を否定的に測ることから解放されない限り、私達は皆、高慢さを持ちます。宗教者、信仰者の違いの一つには《傲慢》を認めるかどうかにあります。宗教者は自分の傲慢さを認めようとしません。しかし信仰者はいつでも傲慢さを認め神様に頼んでやり直そうと頑張ります。その為に頭を下げて神様に祈る人々が信仰者です。

三番目の基準は《霊的な実り》です。信仰者は善い話を聴くことになったら、一から十まで耳を傾けて聞き、一つでも自分の物にしようとして一生懸命努力します。そういう結果、必ず実を結びます。しかし、宗教者は一つを聞いても百を聞いても自分で判断し、これはA、これはBなどと測り裁きます。心を動かす事はありません。ですから実りがありません。信仰の生活には生温くて人には無関心じゃなかったら冷たい視線ばかりです。信仰の生活とは言えないでしょう。

皆様、私達は宗教者ではなく、信仰者になりましょう。一日一日信仰者として神様の御旨に従わなくてはなりません。

もう一度三つの基準を申し上げます。一つ目は、私達の中に感謝する心があるか。いつも感謝しようとする心があるかを振り返ってみましょう。二つ目は、自分の弱さ、傲慢さを認め、謙遜な心、へりくだる心を神様に望む祈りが出来ているかどうかを考えて見ましょう。三つ目、信仰の生活の中で、

どのような霊的な実りが見えているのか、その結んだ実りによって喜んでいる人が周りにどの位いるのかを考えてみましょう。

今日は《王であるキリスト》の祝日です。そして今日は教会暦で、一年間の最後の主日です。もう一度この三つの基準を振り返り、来年の《王であるキリスト》の祝日を迎えた時、自分は一年間この三つの基準を考えて過ごして来たという告白が自然に出来るようにと心を持ちましょう。また、この一年間は世界的にいろいろな面で大変な年でした。特に経済が大変でした。その厳しさの中でも笑顔を失わないように頑張ってきた人もいるし、ある程度生活に余裕があってもがっかりしている人もいたんでしょう。皆様、感謝しましょう。そして低くなりましょう。そして神様が約束された実りを自分の物にしようと頑張りましょう。

イエス様が“王”であると告白している意味は権力をふるう世俗的な王ではありません。イエス様が見せようとした《真の王》の意味を各自の胸に刻みましょう。神様から頂いた自尊心を堂々と持ち、人々に信頼感のある“王”であったキリストの模範に従いましょう。皆様が洗礼を受けた時に頂いた三つの務めの中で一つは王職です。皆様も民を愛したイエス様のように、隣人を愛する生き方をしなくてははいけません。

ありがとうございます。